ぜんせき THE ZENSEKI

第7930号　月・水・金発行（祝日除く）　3月15日（金曜日）　2019年（平成31年）

組合員 月1,728円　組合員外 月1,944円（消費税込）

発行所 全国石油商業組合連合会
東京都千代田区永田町2-17-14
電話 03-3593-5751
http://www.zensekiren.or.jp

昭和38年7月1日第3種郵便物認可 振替口座00130-4-52707

ぜんせきweb版　登録受付け中！
新規のご登録の手続きは
下記ウェブサイトでできます
http://zensekiweb.com

エネ庁 資源・燃料分科会

石油〝新時代〟へ

AI駆使、過疎地対策促す

資源エネルギー庁の総合資源エネルギー調査会資源・燃料分科会は経済産業省内で会合を開き（写真）、「資源・燃料政策の今後の重点」と「災害時の燃料供給の強靭化に向けた対策と進捗状況」について話し合った。政策の今後の重点では、元売の業界再編が一段落する見通しであることや、国内の石油需要の減少が加速化していることから、新しい産業像の検討が必要と指摘。需要が拡大するアジア市場など国際市場の活用や海外展開、アジア・中東諸国との協力事業の強化、再生可能エネルギーや脱炭素化技術への投資などの方向性を示した。

同会では「SS過疎地」にも触れ、2017年度末時点で市町村内にSSが3ヵ所の以下の自治体は全171市町村のうち312町村に上ることや、過疎地域のSSの事業継続意志について19％が「未定」、9％が「廃業を考えている」というアンケート結果を示した。そのうえで、人工知能（AI）やIoT（すべてのモノがインターネットでつながる）を活用して人手不足などの課題解消を検討するなどとした。

「災害時の燃料供給」では、現在の約2千ヵ所から早期に8千ヵ所の整備を急いでいる住民拠点SSについて、今年度末までに全国で約3500ヵ所、19年度末までに約7千ヵ所を整備する予定だと説明。さらに、1500台の追加配備を目指す緊急配送用ローリーについて、19年度末までに全国で約1千台以上にするとした。

このほか災害時の燃料供給に関して、都道府県に期待される役割の理解促進を図るため、地域ブロックごとに説明会を順次開催する予定であることを明らかにした。

会合に出席した全石連の坂井信常務理事は意見交換の中で、「国の支援を得ながら、住民拠点SSや緊急配送用ローリーの整備をいま進めている。一方、消費者の自衛的燃料備蓄を促すため、『満タン&灯油プラス1缶運動』を石油連盟とともに展開している」などと話した。

燃料供給網維持に全力

2019年度事業計画案 組合BCP策定支援も

全石連

全石連（森洋会長）はこのほど、理事会を開き（写真）、2019年度事業計画案と収支予算案を了承した。6月13日に千葉市で開催する通常総会に上程する。

事業計画案では、経営革新支援事業として、過疎化や人手不足などによるSSの事業承継問題に対応するため、燃料供給の担い手確保に資する取り組み支援に傾注するほか、消費増税や20年の東京オリンピック・パラリンピックを前に急速な普及が見込まれるキャッシュレス決済、店舗管理システムなどのIT・IoT関連技術情報の収集と組合員への提供を推進する。

流通適正化対策では、市場における公正競争環境の整備に向け、価格表示および消費増税に伴う転嫁の適正化に取り組むほか、災害対応力の強化に向けた中核SS・小口配送拠点・住民拠点SSなどの情報ネットワークの構築・訓練の実施、「経営相談室」「法律相談室」による組合員からの相談受付、異業種SS併設情報などの収集・集約などを積極的に行っていく。

また、流通環境整備対策事業では、EV・CNG車などを含めた自動車用燃料における課税のあり方の検討、SSにおけるクレジットカードのIC化に向けた対応、働き方改革・人材確保対策の検討、燃料供給強靭化に向けた取り組みの推進、情報提供（BCP＝事業継続計画の策定、緊急時連絡網整備）など石油組合へのサポートを強化する。

対外広報事業では、『満タン&灯油プラス1缶運動』の認知度向上に取り組むほか、ガソリン・灯油需要喚起と石油税制改正のための広報活動を展開していく。

共同事業では、各種共済の普及・加入促進（組合職員向け研修会の開催など）、加入者サービスの向上（SS総合共済加入者向け「賠償交渉相談サービス」）、農林漁業用重油事業では、各還付制度・無税重油制度の的確な遂行、マルポール条約への的確な対応を盛り込んだ。

石油協会 災害対応力を強化

全国石油協会（山富二郎会長）は先ごろ開いた理事会で、SSの災害対応力強化に向けた石油製品安定供給確保支援事業や、過疎地などにおける石油製品の流通体制整備事業の推進などを骨子とした2019年度事業計画案並びに収支予算案を承認した。

事業計画案では、SSの経営の安定・強化を図るため、中小企業等経営強化法に基づく「経営力向上計画」認定先への保証、セーフティネット保証など信用保証制度の利用促進、利子補給制度の継続実施、品質管理事業を通じた石油製品の品質確保などを盛り込んだ。

論説

「業転屋」がいなくなった

需給正常化の動きが顕著になり1年余り。いま影響力を持つ商社から名義貸しを行うような販売業者までを含め、業転玉は「規模縮小」の流れが加速しているのは事実だ。「トータルカーライフ」、「新電力」など、これまでとは異なるアプローチで販売店の収益性を確保する提案を次々に打ち出し、業転玉とは関係のないSSづくりを図ろうという意識が確実に進んでいる。

脱石油というべき潮流は、石油製品市場のいまを見ればある意味当たり前。かつて需給バランスの隙間を埋めるのが、業転玉の本質であったが、元売には余剰玉を作らない、売らないという方針の大転換があり、第1次、第2次高度化法を経て、石油製品市場は極めて平準化された。次いで系列仕切りと業転価格の差がほぼ2分の1から3分の1程度に縮小した。さらに元売再編により、「ショートポジション」という言葉で表される需給均衡が永続することがほぼ確定する。つまり業転市場は将来までを見通しても、市場が再び活況を呈するという見込みがなくなったと言える。

一部の業転業者は今後も商売を続けるだろう。だが、かつての元売の余剰玉や、業者間の横流し的な転売で利益を得る商売ではなく、資本を投じ製品輸入を視野に入れ、基地や輸送手段を確保しながら、品質管理、販促までを行う企業に優位性がある。資本力を有し、投資意欲のある企業を除き、これまでのように「うちはもっと安くします」などと強気に商売をする業転業者はいないし、一部の業転業者に受注が集中する可能性も予想される。

時代の流れは業転の売り手に大きな変革を求め、商社では人員削減や配置転換が相次ぎ、業転の売り手が極端に少なくなっている。飛び込みでセールスしてきた社員が、ケミカル商品の拡販員になったり、新電力部門に配置転換されているとの話を聞く。かつて石油の商流すべてに長けていた社員は伝説になり、様々な場面で名前が挙がった「やり手」が姿を消している。確かに直近では業転と系列仕入れの価格は拡大する傾向もある。しかし、そこにはビジネスチャンスと捉えて売りまくる「業転屋」と呼ばれる人々がいない。

石油製品市場の様変わりは、そのまま業転を扱う人々の様変わりを意味し、後戻りできない需給均衡が続く市場を作り上げている。

神奈川理事長に木所氏2選内定

【横浜】神奈川石商・協（木所章理事長）は11日に選考委員会を開き、任期満了に伴う役員改選で木所理事長（川崎市、木所社長・JXTG系＝写真）を次期理事長として推薦することを決めた。

これにより、木所理事長の2選が内定した。5月28日の総代会で正式決定する。

石連週報 3月1週 ガソリン出荷好調

石連週報による3月第1週（3～9日）のガソリン出荷量は、前週比0・6％減、前年比3・7％増の90・9万キロリットルで再び前年実績を上回った。過去5年平均比でも0・3％増。生産量は前週比2・3％増の101・3万キロリットルとなり、前月比で2週連続の増加、3週ぶりに100万キロリットル台に乗った。在庫は前週比3・9％減、前年比3・5％減の163・8万キロリットル、3週連続で低水準が継続した。

一方、灯油出荷量は前週比25・2％減、前年比10・8％増の38・3万キロリットルで、7週ぶりに前年を超えた。在庫は16・8％減、11・6％増の150万キロリットルとなり、20週連続の余剰。軽油出荷量は8・3％減、3％増の63・9万キロリットルと2週連続で好調。在庫は1・1％減、27・8％増の153・1万キロリットルで、8週連続にわたり積み増しされた（2面にDATA）。

今週のガソリン小売市況概況（3月3週）

	全体概況	ベンチマーク 前週	ベンチマーク 当週	備考 ※斜字はフル
北海道	⇓	￥145	￥145	*札幌市・地場・系列*
北東北	⇗	￥144	￥144	秋田市・広域・系列
南東北	⇗	￥147	￥147	*仙台市・広域・系列*
信越	⇗	￥133	￥135	新潟市・地場・系列
北関東	⇑	￥133	￥133	宇都宮市・異業種・PB
首都圏	⇗	￥132	￥131	印西市・異業種・PB
山静	⇗	￥135	￥138	*静岡市・広域・系列*
東海	⇗	￥129	￥130	鈴鹿市・広域・系列
北陸	⇗	￥128	￥130	福井市・地場・系列
京阪	⇑	￥139	￥144	大東市・子会社・系列
阪神	⇘	￥139	￥139	神戸市・地場・系列
山陽	⇗	￥140	￥135	岡山市・地場・系列
山陰	⇑	￥143	￥145	*米子市・地場・系列*
四国	⇒	￥149	￥149	*高松市・地場・系列*
九州北	⇗	￥146	￥146	*福岡市・地場・系列*
九州中	⇗	￥139	￥139	熊本市・広域・PB
九州南	⇗	￥147	￥147	宮崎市・地場・PB

⇑0.5円超上昇、⇗小幅上昇、⇒横ばい、⇘小幅下落、⇓0.5円超下落

2月81都市G横ばい

総務省が発表した「自動車ガソリン」の81都市別2月小売価格調査結果（消費税込み）によると、全国平均は前月比横ばいの143・0円となった。

都市別にみると、最安値は前月から6円安の徳島の134円。最高値は横ばいの大分の159円だった。130円台が28都市から18都市に減少、140円台が44都市から55都市に増加、150円台は9都市から8都市に減少した。都市別の前月比では、6円安が13都市の徳島、149円の高松など、26都市で値下がり。横ばいが23都市、値上がりは32都市だった。

関東北陸以東の東日本39市平均は0・9円高の141・5円、東海以西の西日本42市平均が0・8円安の144・4円で、西高東低差は1・7円縮小し、2・9円となった。

2月中旬CIF 0.3円高42・6円

JXTG出光・昭シ 全油種据置～0.5円高

財務省

財務省が発表した2月中旬原油CIF価格は、前月比0・15ドル安の61・0ドルの下落となり、3ヵ月連続で前月を下回った。

円建ては為替がドル109・40円と円安で推移したため、318円高の4万2594円に値上がりした。

JXTGエネルギーは14日からの基準仕切改定幅を通知した。特約店によると、前週比で全油種据え置きとなった。

出光は14日からの仕切りを全油種据え置きとした。昭シェルは14日からのSS向け週決め仕切りを通知した。特約店筋によると、前週比で全油種0・5円値上げした。

東日本大震災の余震発生数1.5倍

政府・地震調査委

政府の地震調査委員会が11日発表した「2011年東北地方太平洋沖地震」（東日本大震災、モーメント・マグニチュード［Mw］9・0）以降の地震活動評価によると、余震活動は岩手県沖～千葉県東方沖の広域で発生しており、余震活動は全体として徐々に低下傾向がみられるものの、依然、大震災前の平均的な地震発生件数と比べて1・5倍程度起きていることから、他の巨大地震における事例も合わせて総合的に判断すると「今後も長期間にわたって余震域や内陸を含むその周辺で規模の大きな地震が発生し、強い揺れや高い津波に見舞われる可能性がある」と注意喚起した。

04年のスマトラ島北部西方沖地震（Mw9・1）では、約7年半後にMw8・6、約11年後にMw7・8の大きな地震が発生している。

レギュラー小売0.2円高145・1円

エネ庁週市況

資源エネルギー庁による小売価格調査（11日・消費税込み）レギュラー全国平均は前週比0・2円高の145・1円と4週連続で値上がりした（累計2・2円高）。地域別では、1・4円高の群馬、1・1円高の山口と沖縄、1・0円高の宮城と長崎など33都府県で値上がり。0・7円安の神奈川、0・4円安の大阪と愛媛、0・2円安の岡山、大分、熊本など10道府県で値下がりし、4県で横ばいとなった。

ハイオクは0・2円高の155・9円。軽油も0・2円高の126・0円。灯油は18㍑店頭が4円高の1613円、配達が3円高の1770円。（2面に県別データと「今週の地域市況」概況）

ポンプあいうえお

▼あの日の夜空はきれいだった。「星に助けられたようなもの」海面をさまよいながら生きる力、勇気を星に与えられ九死に一生を得た」。震災の惨状について口を閉ざす被災者たちも星については語り続ける。輝く星一つひとつに失った家族を重ね、夜空を見続ける人もいる。東日本大震災から8年。いまなお不自由な生活の中で悲しみに暮れる被災者に星は様々な力や希望を与えている▼その星の1つ、小惑星・リュウグウに小型探査機「はやぶさ2」が太陽系や生命誕生の謎を解明するため、地下物質などのサンプルを日本に持ち帰ろうと挑戦中だ。地球からの距離2億8千万キロ。途方もなく遠い宇宙で、わずか900㍍ほどの大きさしかない小惑星の表面を掘り地下の状態を探る▼1回目の着地実験は先月に見事成功。あと半年ほど世界初のいくつもの試みに挑戦するはやぶさ2。リュウグウは日本の昔話・浦島太郎が海中で過ごした竜宮を星に見立て命名された。玉手箱同様に土産を宇宙から持ち帰る願いが込められている▼太陽系誕生の46億年前の有機物の手がかりなどがリュウグウに残されているか。星を見つめ続ける被災者の方々も来年末、沢山の土産を携えてはやぶさ2が地球に帰還することを願っているだろう。小欄も被災地復興とSS業界発展を願って夜空を仰ぎ続けたい。

きょうの紙面
2面　北海道・SSの自家発導入助成
■DATAコーナー＝原油価格、石油製品先物情報、週動向調査、石連週報
3面　中部版・コストコ作業急ピッチ/近畿版・大阪万博準備本格化
4面　トレンドファイル/市況概況

1WAYコーティング ドライブスルー洗車機
HAYABUSA ～はやぶさ～
今、セルフ洗車の歴史が動く！
洗車渋滞
機会損失
満足度の低下
混んでるからやめようかな…
お客様が多く並ぶのはうれしいけれど…
1分の壁を切る高品質スピード洗車
ウォッシュコース・シャンプーコース
一般的なセルフ機 1.5倍 最速設定 約1分35秒
旧1WAY機 0.5倍 最速設定 約1分35秒
HAYABUSA 0.5倍 最速設定 約59秒
ベースコーティング(FK-2 HYPER)
コーティング最速65秒
一般的なセルフ機 1.5倍 最速設定 約1分45秒
旧1WAY機 1.5倍 最速設定 約2分30秒
HAYABUSA 0.5倍 最速設定 約65秒
仕上がり満足度UP 洗車単価UP
新登場
Tire Wax Dispenser
TWD1 NEW 業界初
コイン式 タイヤワックス ディスペンサー
After Before
「洗車のついでにタイヤも綺麗にしたいなぁ」というドライバーの声から生まれた「タイヤワックスディスペンサー」。仕上げ場のわずかなスペースでも設置可能なスリム設計でワックス掛けが容易にできます。タイヤワックスのセルフ有料化を促進し洗車収益をサポートします。
Beauty ビユーテー株式会社
機械遺産認定の信頼と洗車機累計販売台数世界NO.1の実績
SINCE 1965
本社 名古屋市港区木場町2番地 TEL 052-692-2101(大代表)
ビユーテー 検索 http://www.beauty.gr.jp
ISO14001
ビユーテー本社事業所は環境管理に関する国際標準規格 ISO14001 の認証を取得しています。
■Network of the Beauty
北海道支店　仙台支店　上信越支店　埼玉支店　東京支店　千葉支店
東海支店　北陸支店　大阪支店　広島支店　福岡支店　南九州支店

ＳＳの自家発導入を助成

195カ所整備へ申請受付中

北海道

【札幌】北海道は災害時における石油製品の安定供給体制を確保することを目的に、地域の燃料供給拠点となる「北海道地域サポートSS」を運営する揮発油販売業者を対象とした助成制度を新設し、事前申請を今月6日から受け付けている。受付期間は29日まで。補助対象となるのは、自家発電機の本体とその設置工事費用、また自家発と同時に購入する緊急用可搬式バッテリー計量機と緊急用可搬式ポンプ（人力で稼働するもの）。補助金の限度額は1SSあたり250万円で、補助率は10分の10になる。

交付対象者は新たに自家発電設備を導入するSS。すでに国の中核SS、住民拠点SSになっているSSや、住民拠点SSの事前申請を行っているSSは対象外になる。ただし、全石連が道内18地方石協を通して現在実施している「住民拠点SS整備事業アンケート調査」で希望する旨を回答した場合でも応募は可能となる。

道は昨年9月の北海道胆振東部地震の復旧・復興事業費として76億5千万円を2018年度補正予算に計上。ブラックアウトによる大規模停電での経験から、総額4億8750万円の予算で全道195ヵ所のSSに自家発電設備を導入する。今回は都市部を重点に整備する方針で、都市部に該当する39自治体のうち、自家発電設備を持つ中核SSおよび住民拠点SSの50%以上が総SS数の50%に満たない23の自治体については、いずれも50%を超えるように合計180ヵ所採択する。最も多い札幌では79ヵ所が整備される予定。また、中核SSおよび住民拠点SSがまだ1ヵ所もない15自治体にも1ヵ所ずつ整備する。

事前申し込みの提出先は、SSが立地する自治体を所管する各道のホームページで。受付期間は4月1～8日で、5月中に交付決定する予定。詳しくは（総合）振興局の商工労働環境課。本申請の

転嫁ムードは一服感も

今週のガソリン市況　3月第3週

◎北海道…札幌はセルフ143円程度、フル145～6円、安値量販セルフ141・8円表示で2月第5週以降変わらず。

◎東北…セルフは仙台市で下値がやや軟化し141～7円が多い。山形市は137～151円、青森市は129～143円でともに横ばい。秋田市は140円前後、盛岡市は135～7円、福島市は149円前後中心でいずれも横ばい。

◎北関東…群馬は高崎市がセルフが140円前後で推移。栃木は県北143円前後、県央137～140円、県南138円前後とほぼ横ばいで推移している。茨城もセルフ141円前後でほぼ横ばいの状況が続く。

◎首都圏…埼玉はセルフ137円前後。千葉はセルフで136円前後中心だが、一部にコスト転嫁に積極的なSSも現れている。都内の主要幹線沿い量販店はほぼ動きがなく、フリー140円台も広く見られる。

◎山静…静岡はセルフで静岡市内141～3円程度、県東部140～2円、県西部141～4円。山梨はセルフ会員143円前後中心で推移している。

◎東海…愛知はほぼ横ばいの状態が続く。常滑のコストコ127円、PBバロンパーク126円は動かず。同激安2店の影響を受ける知多や西三河地域では130～6円の低水準が続いている。名古屋市内ではセルフ会員136～9円、現金140円前半で推移。三重は依然鈴鹿や伊勢のクイックピット、津の伊藤佑などPBが127～130円。岐阜は140円台が中心。

◎北陸…石川の価格競争が激化。PBカナショクとミタニ系が1円値下がりし131円、一般系列も132～7円の店頭表示で対抗。福井もほぼ同様の状況だが、富山は140円台で落ち着きつつある。

◎近畿…滋賀は大津市や栗東市で141～3円が中心。京都市内は139～142円。大阪は北部で139～144円、南部で138～142円。奈良市内は135～140円。和歌山市内は135～9円が中心。兵庫は139～141円程度が中心価格帯となっている。

◎中国…セルフは岡山市内で135円前後に軟化。山口市内では138円前後中心。高松市内は145円前後が中心で横ばいが続く。

◎九州…福岡市の中心部は3～4円程度上昇するSSも点在するが、全体的には転嫁の動きは弱い。価格競争が厳しい地域では130円台も少なくない。宮崎県は量販SSの価格が軟化しているため、全体を押し下げるような状態になっている。

Ｊ本田価格が映す需給改善

系列と業転の連動くっきり

関東1都4県に7SSを展開し、地域の底値指標となっているジョイフル本田のこの1年間の価格改定を見ると、PBでありながらも確実に元売の仕切りに連動した価格設定をしていることがわかる。この結果、業転価格と系列仕切りの改定はほぼ同一の動きをし、元売各社の需給調整が確実に市場へ浸透していることとなる。

同社7SSのガソリン価格は昨年4月時点での売価と直近の売価がほぼ同額になっていることから、関東石油製品市場の底値は1年間で同水準に戻ったこととなる。

4月に131～2円程度だったガソリン価格はゴールデンウィーク前から上方修正され、7月に140円台、9月末から10月は毎週のように2～3円の値上げを繰り返し、10月2週には146～7円の今年度最高値を付けた。

その価格は11月までほぼ1ヵ月間続き、その後1ヵ月間で10円の下方修正を行い、12月には136～7円、1月には128～9円と年度最安値まで値下がりした。2月からは反騰に転じ、現在は132～4円にまで上昇、年度当初と同水準になっている。

年間最高値と最安値の格差は19円、価格改定は27回行われ、年間平均では2週間に1度の割合。時期的には9月末からの原油急騰に伴う仕切り高騰、その後の急落、さらに2月の仕切り高騰局面にも対応した価格設定をしたことが明らかになり、一般業者が同社SS価格を底値指標と判断するのがわかる。

また、地場セルフSSは昨年4月に137円前後、現在も140円前後であることから、ほぼ5～7円程度の価格差状態で推移しており、それがそのまま一般的な系列セルフSSと底値を形成する価格の格差と見ることもできる。

同社の価格設定について周辺業者は「市場性を反映している。コスト未転嫁分がほとんどない」との声が上がるとともに、系列仕切りと同様の値動きをしていることに「業転価格も系列仕切り並みの変動をしていることになる」と指摘する。

ＳＳは地域拠点の〝核〟

あば村実証事業で実績報告

【津山＝岡山】今年度、岡山県津山市の阿波地区で実施された「SSを拠点とし、域外他業種と連携した地域生活支援再構築実証事業」の実績報告がこのほどまとまった。同実証事業は、全石連のSS過疎地対策検討支援事業の1つとして行われたもので、買い物支援や高齢者の見守りなどの取り組みを総合的に進めることで、SSが地域の生活拠点としての役割を果たしつつ、経営の安定化にもつなげることを目的として実施された。

地域の拠点としての重要性を示したSSとあば商店

事業では一昨年より実施中の「地域生活支援&見守り事業」と平行する形で、10㍑の小型ポリタンクで置き薬方式による配達を8世帯の協力を得て行うとともに、発注を一元管理するためのソフトの開発やPOSの導入などにも取り組んだ。

報告書では、事業はほぼ計画通りに実施できたとの評価で、高齢化地域において、SSが地域支援の核となる重要性を改めて感じさせる結果となったと総括している。

広報部事務所を移転

昭シェル

昭和シェル石油広報部は事務所を移転し、出光興産広報部と同事務所での業務を開始する。新事務所での営業開始は18日。

〈移転先〉〒千代田区丸の内三丁目1番地1号帝劇ビル〒100－8321電話＝03－6689－5333FAX＝03－3217－4031

パンク救援10年で４割増の10万件

17年度ＪＡＦ出動件数

「パンクは10年で10万件超、約4割増加」。JAFが先ごろ発表したタイヤトラブルに関する救援依頼は2017年度に39・2万件あり、07年度対比で37%増（10・5万件増）となっていることがわかった。出動件数（四輪車）全体に占める割合も17%に達するなど10年で6・7ポイントも伸び、タイヤ点検の重要性が改めて浮かび上がった。

JAFが2年前に実施したタイヤ点検サイクル調査によると「2～3ヵ月」（34%）、「1ヵ月以内」（27%）で計6割を占めたが、「4～6ヵ月」（15%）、「6ヵ月～1年」（13%）、「自分では気にしたことがない」（11%）も計4割に上った。

一方、マイカーに搭載されているタイヤ修理備品は「スペアタイヤ」（構成比58%）、「応急修理キット」（36%）、「不明」（7%）だったが、修理キットの利用には「クギやネジが刺さったパンクは抜かずに応急処置が必要」などの注意事項や修理剤の有効期限が記載されていたり、スペアタイヤも空気圧不足やひび割れする可能性もあることから、定期点検に合わせて確認するよう促している。

生活、産業、地域を支える　石油の力ＳＳの力　神奈川県相模原市 ▶vol.323◀

挑戦の軌跡に評価、６回目で頂点

GS甲子園

日本一のガソリンスタンドを決める「GS甲子園」の決勝大会が東京・渋谷区内のあいおいニッセイ同和損保センチュリーホールで先月開かれ、シブヤエネックス（横浜市、澁谷彰樹社長・JXTG系）のスタシオン城山SS（相模原市）が最優秀賞に輝いた。予選を勝ち抜いた4社がSSの収益向上策などを発表し、観覧者による会場投票で頂点を決めた。今年で7回目。取り組みを披露し競い合うことで、SS同士が刺激し合う場になっている。

スタシオン城山SSは油外商品の販売に力を入れている。山間部に位置し冬の降雪量が多くスタッドレスタイヤが欠かせない地域であるため、秋口の冬用タイヤ装着時と春の夏タイヤへの交換時にキャンペーンを展開。ステージ上でプレゼンした浜岡竜三エリア統括部長は「次回の交換を仮予約した顧客に割引チケットを配り、再来店してもらえる仕組みを作っている」と語った。同SSは2016年9月にフルサービスからセルフへと切り替え、17年からカーコンビニ倶楽部に加盟し、SS隣地に鈑金工場を立ち上げた。

浜岡部長は「3年以内に年間車検台数を千台にする」と目標を掲げ、「今年はオイル交換の新規顧客を千件確保し、その顧客の中から最低500台の車検の新規客を獲得したい」と意欲を燃やした。年4回実施しているオイルセールを活用し、オイル交換に来た客を車検にも取り込みたい考え。昨年のオイル交換の新規顧客は780件だったという。

同SSでは、クルマの点検作業などを行った顧客とは〝愛車カルテ〟を取り交わしている。作業内容や、いまのクルマの整備状況が一目でわかるよう工夫。また保険満了月や証券番号、事故時の保険会社の電話番号などを記した『お客様安心対応カード』を発行し、きめ細かい対応で顧客数を伸ばしている。

新規事業の構想も描く浜岡部長。「15年ほど前から『不要な車1万円買取事業』を展開しているが、いまは車の処分の手伝いをするという位置付け」と指摘。そのうえで、「商圏内の高齢化と自動車保有台数の多さを考えると、SS店頭での片手間的なものではなく、本格的な中古車買取専門店を2年以内に立ち上げたい」と決意を口にした。

最優秀賞に選ばれ、檀上に上がった浜岡部長は「6回目の挑戦でようやく取れた賞。ここまで来るのに時間がかかったが、得るものがたくさんあった。良い経験になった」と感慨深げに話している。

表彰状と記念盾を手に記念写真に収まる浜岡部長（中央）

ＤＡＴＡコーナー

■石油先物市場・3／13

△値上げ、▲値下げ◇ストップ高、◆ストップ安、単位：￥／ＫＬ

東京商品取引所（京浜海上：1枚＝50ＫＬ）

16：30現在	前日比	限月	16：30現在	前日比
（前日出来高703枚）		ガソリン	（前日出来高－枚）	
56,830	▲280	④限月	60,500	△300
57,430	△70	⑤限月	61,000	△500
57,510	△10	⑥限月	59,500	0
57,090	0	⑦限月	58,900	0
56,730	△80	⑧限月	58,800	0
56,470	△40	⑨限月	59,000	0
（前日出来高272枚）		灯　油	（前日出来高－枚）	
62,810	△280	④限月	63,000	0
62,780	△280	⑤限月	61,000	0
62,640	△200	⑥限月	61,000	0
62,040	△370	⑦限月	60,000	0
61,550	△400	⑧限月	59,000	0
61,220	△330	⑨限月	59,000	0
（前日出来高－枚）		軽　油		
64,600	0	④限月		
64,300	0	⑤限月		
64,000	0	⑥限月		
63,700	0	⑦限月		
63,400	0	⑧限月		
63,100	0	⑨限月		

中京石油市場（伊勢湾油槽所：1枚＝20ＫＬ）

原油指標

		前日比
国内指標	＄／Ｂ	67.05（△0.48）
	￥／ＫＬ	47,354（△264）
ＷＴＩ	＄／Ｂ	56.87（△0.08）
	￥／ＫＬ	40,168（▲8）

■ＳＳ店頭市況週動向調査・3／11

（単位：￥／Ｌ、↑値上げ、→同値、↓値下げ）

レギュラー								
北海道	145.4	↓	静　岡	145.9	↑	鳥　取	144.6	↑
青　森	142.7	↑	山　梨	149.2	↑	島　根	147.8	↑
岩　手	142.6	↑	愛　知	142.8	↑	山　口	142.0	↑
宮　城	144.2	↑	三　重	145.3	↑	徳　島	138.3	↑
福　島	147.3	→	岐　阜	144.9	↓	高　知	149.2	→
秋　田	147.1	↑	富　山	143.8	→	愛　媛	146.3	↓
山　形	148.6	↑	石　川	141.4	↑	香　川	144.6	↓
新　潟	143.2	↑	福　井	145.6	↑	福　岡	145.6	↑
長　野	151.8	↑	滋　賀	142.6	→	大　分	153.1	↓
群　馬	144.7	↑	京　都	147.0	↑	佐　賀	148.8	↓
栃　木	143.5	↑	大　阪	142.0	↓	長　崎	157.1	↑
茨　城	141.4	↑	奈　良	143.5	↑	熊　本	147.0	↓
千　葉	140.8	↑	和歌山	142.1	↑	宮　崎	148.5	↑
埼　玉	140.0	↑	兵　庫	142.1	↑	鹿児島	153.9	↑
東　京	145.7	↑	岡　山	140.9	↓	沖　縄	150.5	↑
神奈川	141.7	↓	広　島	142.8	↑	全　国	145.1	↑

灯油（店頭）								
北海道	1,633	↑	静　岡	1,678	↑	鳥　取	1,624	↑
青　森	1,510	↑	山　梨	1,636	↓	島　根	1,697	↑
岩　手	1,519	↑	愛　知	1,614	↑	山　口	1,606	↑
宮　城	1,504	↑	三　重	1,630	↑	徳　島	1,508	↑
福　島	1,541	↓	岐　阜	1,562	↓	高　知	1,665	→
秋　田	1,554	↓	富　山	1,644	↓	愛　媛	1,614	→
山　形	1,580	↑	石　川	1,561	↑	香　川	1,526	↓
新　潟	1,646	↑	福　井	1,632	↑	福　岡	1,567	↑
長　野	1,595	↑	滋　賀	1,579	↓	大　分	1,671	↓
群　馬	1,595	↑	京　都	1,700	↑	佐　賀	1,679	↑
栃　木	1,588	↑	大　阪	1,591	↑	長　崎	1,723	↑
茨　城	1,521	↑	奈　良	1,559	↑	熊　本	1,599	↑
千　葉	1,598	↑	和歌山	1,580	↓	宮　崎	1,715	↑
埼　玉	1,573	↓	兵　庫	1,607	↑	鹿児島	1,777	↑
東　京	1,743	→	岡　山	1,532	↓	沖　縄	1,865	↑
神奈川	1,652	↑	広　島	1,609	↓	全　国	1,613	↑

■国内供給統計（石連週報）・3月第1週末　（単位：千ＫＬ、％）

	東日本	西日本	合　計	前週比	前月比	前年比
①原油処理量	2,249.2	1,296.3	3,545.5	98.6%	99.6%	95.1%
②製油所稼働率	91.6	88.8	90.5	▲1.3	▲0.4	▲4.7
③石油製品在庫量						
ガソリン	834.3	804.0	1,638.2	103.1%	96.1%	96.5%
灯　油	1,081.3	416.9	1,498.1	93.9%	83.2%	111.6%
軽　油	913.6	617.8	1,531.4	101.4%	98.9%	127.8%
Ａ重油	439.9	357.6	797.6	101.0%	100.4%	119.8%
６油種計	4,756.8	3,478.2	8,234.9	101.1%	95.1%	109.2%
④製品出荷量推計						
ガソリン	573.1	336.0	909.1	103.8%	99.4%	103.7%
灯　油	261.3	121.5	382.8	116.6%	74.8%	110.8%
軽　油	424.3	215.0	639.3	96.3%	91.7%	103.0%
Ａ重油	130.2	99.4	229.7	89.7%	79.5%	88.7%
６油種計	1,545.5	853.5	2,399.0	102.4%	87.0%	102.7%

キュー太郎　浜坂高一朗

世界の三大ガソリン計量機メーカー
TATSUNO

HITACHI
Inspire the Next
小さくなって、使いやすさアップ。
マルチフェイスLOW typeは、高さをおさえたコンパクト仕様。
低い背丈でも広い給油範囲を確保し※、
ノズルも取り回しやすくなりました。
さらに、コンパクトなLOW typeなら、開放感ある広々としたSSを演出。
多彩な機能に高い操作性をプラスした人にやさしい一台です。
※当社従来モデル（LOW type）より10%アップ
MULTIface マルチフェイス
日立オートモティブシステムズメジャメント株式会社　〒210-0005 神奈川県川崎市川崎区東田町８番地　パレール三井ビル　TEL. 050-3852-5623　http://www.hitachi-automotive-mm.com

中部

中部支局（名古屋市中区正木3-2-70 愛知県石油会館）052（321）6001

コストコ野々市店、作業急ピッチ

4月中旬、石川へ初上陸

地元に危機感

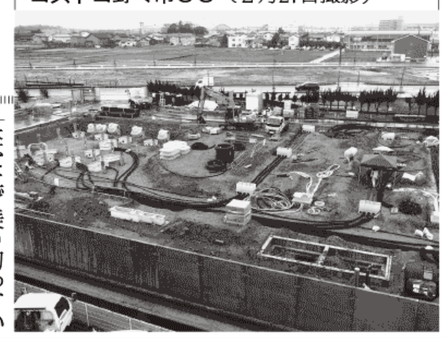
コストコ野々市倉庫店（石川県野々市市）に大規模ＳＳが４月の開業を目指して、工事を急ピッチに進めている。

北陸自動車道・白山ＩＣの南側、国道８号線すぐ近くに立地する同店は昨年８月から食料品や生活用品の量販店として営業していたが、ＳＳ併設店舗として新たにガソリンなど石油燃料の本格販売に乗り出す。

ＳＳ工事は雨天でも行われ、すでに地下タンク埋設を終えて地上部分に移っている。ガソリン、ハイオク、軽油の給油ノズルがそれぞれ２本ずつの計量機９基という中部地方では最大規模となるＳＳは４月中旬ごろ完成の予定。

地元周辺のＳＳでは、「コストコは各地の店舗と同様に安売りで進出するのは間違いないだろう」と警戒を強めている。

開業を目指し工事が急ピッチで進められるコストコ野々市ＳＳ（２月27日撮影）



収益確保し労務対策

補助事業概要など説明

富山

富山石商・協（島竜彦理事長）の役員会がこのほど県石油会館で開かれ、石油関連補助事業の内容説明や5月の総会時に表彰する「永年勤続優良従業員」の推薦方法などが審議された。

冒頭、島理事長（写真）は「大雪の降らなかった今冬は灯油販売量が平年比で70％台まで落ち込む結果となった。加えてガソリン仕切価格はこの2～3ヵ月上昇を続け約7円もアップした。上昇分は販売価格に反映されるのが本来の姿なのだが、現実にはそうなってはいない。昨年10月ごろからは灯油だけでなくガソリンまで需要減を痛感するばかり。収支バランスの取れる再投資可能な経営を目指し力を入れていこう」とあいさつした。

また「元号が変わる4月から5月にかけて大きな行事が目白押し。ゴールデンウィークに合わせた10連休は（燃料を供給する立場の）我々には難しいところがある。休日出勤の従業員のためにも収益を上げ乗り切っていこう」と呼びかけた。

さらに、ＰＢを中心とした廉売横行についても触れ、「公正取引委員会へその不当性を訴え続けたが、違法性はないとの回答ばかり。公正市場実現には公取委だけでなく政治の力を借りていく必要もある」と訴えた。

会議では、災害時における役割に大きく貢献する住民拠点ＳＳへの補助事業やＰＯＳシステム、ガソリン・重油を含めた油種制限のないローリー補助事業、今年度補正や新年度当初予算で実行される制度の内容を事務局が説明、積極的な活用が促された。また、毎年行っている優良従業員を対象とした表彰（5月予定）について、勤続10年以上、20年以上の対象者の推薦を所定用紙に必要事項を記載し4月5日までに同石商に送付することなどが確認された。

三重・働き方改革セミナー（下）

法令順守こそ会社守る

働き方改革の真意は低賃金、長時間労働から競争力のある会社にして労働生産性を向上させることにある。そのためにはコンプライアンスは最低条件。つまり法令の順守について素直に「守っていたら会社がつぶれる」とかつては言われ、少し前だと「どうやってごまかすか」の意識が経営者の中にはあったが、いまは「守らないと会社がつぶれる」という時代だということを肝に銘じてほしい。

人手不足についても深刻な状況に陥っているが、正社員だけで労働力を確保するには言うまでもなく限界がある。労働力は多面的雇用での確保、つまり育児・介護をしながらの女性の活用、高齢者、障害者、外国人労働者などに目を向け「働き手の目線で環境を整備する」ことが大事。

具体的には、①育児などとの両立を重視する女性・主婦の場合、勤務体系に柔軟性を持たせる②健康面や働きがいを求める高齢者には身体的負荷への配慮、無理のないシフト、繰り返しの指示③外国人労働者は能力・職務主義、ジョブ明確化を志向する傾向にあるので、人事制度を明確に説明する―ことが重要だ。

特に女性の活躍を促すことについては、「家庭で育児などに専念している優秀な人材を職場環境を整えることによって確保できる」「他の従業員の勤労意欲・定着率を高める」「職場の雰囲気を良くし、企業イメージや生産性向上につながる」などメリットが大きい。

そうした仕事と育児の両立を支援するため、短時間勤務制度や所定外労働時間の免除、子どもの看護休暇、フレックスタイム制度の導入が求められる。

シニア層についても賃金面だけでなく「健康に良い」「生きがいがある」「社会参加できる」といった働く目的に雇用側は着目。過去の経験を活かし「70歳くらいまで」「75歳くらいまで」「働けるうちはいつまでも」と就業意欲が高いことから、勤務日数や労働時間帯など希望を聞いたうえで雇用につなげてほしい。

富山 総会は5月16日開催

富山石商・協（島竜彦理事長）は、このほど開いた役員会で2019年度の通常総会を5月16日に県石油会館で開催することを決めた。今年は任期途中で役員改選はない。18年度の活動報告や損益、新年度事業計画や収支予算案などを審議する。今月末と4月の役員会で総会への提出議案を詰めていく予定。

中日本高速

新名神が開通

新四日市～亀山西間

NEXCO中日本が進めていた新名神高速・三重県の新四日市JCT～亀山西JCT間（延長約23キロメートル）が明後日の17日午後4時に開通する。これにより静岡県・御殿場から滋賀県・草津まで約330キロメートルの高速道路は「東名・名神」と「新東名・新名神」のダブルネットワークとなり、渋滞解消や物流の時間短縮だけでなく災害対応などにも大きく寄与すると期待されている。

今回の開通区間は、東名阪自動車道の北側をほぼ並行してのルートで菰野町にIC、鈴鹿市北部にPAとETC専用ICが設けられる。

近畿

近畿支局（大阪市北区南森町1-4-19 サウスポレストビル5階）06（6362）2917

大阪万博準備本格化

軽油特需に期待

価格競争激化を懸念

不正軽油暗躍不安視する声も

2025年に開催される大阪・関西万博で、運営主体となる「日本国際博覧会協会」が発足するなど、準備が本格化しつつある。高速道路網整備といった大型の公共工事が一段落した近畿圏で、軽油の特需発生に期待しているSS業者は数多い。その一方で、価格競争激化による利益悪化や不正軽油の暗躍などを不安視する声も出てきている。

近畿圏では新名神や阪和、第2京阪など高速道路網整備がほぼ完成し、大型の公共事業プロジェクトが終了したことで、軽油需要の冷え込みに不安を感じていた業者は多く、軽油供給に注力する畿内の特約店社長のように「万博開催決定時には興奮した。道路建設ほどではないだろうが、工事が始まれば、数多くの建設車両が動くので、相当な量の軽油が必要になってくるはず。商機はある」と期待する声は多い。

万博による会場整備などで軽油特需への期待が高まっている（写真はイメージ）

一方で不正軽油の暗躍の可能性もある。2月と3月には兵庫県内の業者が逮捕される事件が続発したが、特約店幹部は「最近の入札のように、燃料油の仕入先の報告など、昔よりは取り締まりが厳しくなっているが、裏ではまだ行っている人はいると思う。徹底的に調べて逮捕するべきだ」と強調する。

工事開始までまだ時間はあるが、大手工務店が専門チームを立ち上げるなど、他業界では準備が着実に進んでいる。販売店社長は「いまのところ工事業者からの供給要請はなく、目立った動きはまだないが、いったん工事が始まると忙しくなるだろう。配達だと比較的、利益は取りやすいが、建設業者への売り込みが激しくなれば価格競争が激しくなるかもしれない」と懸念する声も出ている。

1月軽油前年比18・3％増販

NEXCO西日本

NEXCO西日本によると、1月の石油製品販売量（速報値、中四国・九州方面含む）は前年同月比11・8％増の4万2593キロリットルとなった。

このうちレギュラーガソリンは2・4％減の9826キロリットル、ハイオクは6・8％減の1402キロリットルと減販したが、軽油は18・3％増の3万1365キロリットルとなった。洗車を含めた売上高は8・0％増の49・4億円。

SS数は81ヵ所で、1SSあたりの燃料油販売量は7・7％増の525・8キロリットル。そのうちレギュラーは、121・3キロリットル、ハイオクは17・3キロリットル、軽油は387・2キロリットル。

今冬前半2府4県灯油販売量

暖冬響き不調鮮明

近畿2府4県（滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫）の灯油商戦で、昨年10月から今年1月までの販売量を前年度と比較すると、暖冬の影響が大きく反映し、不調が続いていたことが明らかとなった。

別表は石油連盟が発表する都道府県別販売実績をもとに、近畿2府4県で今年度の10月から1月までの灯油販売量を集計したもの。

結果、寒波の影響で比較的堅調に推移した昨年度とは一転して、今年度は不調続きとなった。2府4県とも期間中すべてで前年を下回り、合計だと兵庫（26・1％減）、奈良（20・4％減）、大阪（20・4％減）は2割以上も減販している。また、滋賀（19・7％減）、京都（13・9％減）、和歌山（16・5％減）といずれの府県も2桁台で前年を下回った。

期間中では、商戦序盤となる11月の減少幅が大きく、兵庫（40・6％減）、滋賀（31％減）、和歌山（30・9％減）、大阪（30・6％減）が目立つ。

2月は気象庁の統計によると比較的温暖で、兵庫の兎和野高原で最深積雪量が100センチメートルを超えることはなく、京都の峯山、滋賀の柳ケ瀬に至っては、ほぼ積雪すら観測されておらず、不調が続くことが予測される。畿内の販売店社長らは「暖冬の影響が大きいと思う。灯油は新規需要がほとんどないので、いまの顧客を大切にしてやっていくしかないのでは」と述べる。

近畿2府4県灯油販売量　単位：千キロリットル

	滋賀	京都	大阪
2018年10月	6.5（▲24.7%）	4.4（▲16.8%）	26.1（▲17.6%）
11月	11.0（▲31.0%）	9.7（▲22.2%）	31.1（▲30.6%）
12月	21.3（▲18.2%）	18.6（▲13.2%）	51.7（▲12.7%）
2019年1月	23.1（▲12.6%）	19.6（▲9.2%）	51.7（▲21.6%）
合計	61.8（▲19.7%）	52.3（▲13.9%）	160.5（▲20.4%）
	奈良	和歌山	兵庫
2018年10月	3.2（▲14.3%）	3.6（▲18.8%）	19.5（▲18.1%）
11月	5.8（▲26.6%）	5.1（▲30.9%）	24.7（▲40.6%）
12月	11.6（▲23.6%）	10.6（▲19.5%）	47.2（▲28.3%）
2019年1月	12.1（▲15.2%）	11.4（▲3.2%）	55.8（▲17.9%）
合計	32.7（▲20.4%）	30.7（▲16.5%）	147.2（▲26.1%）

海の生き物に触るミニプール

京都市内で環境イベントを開催

コスモ

コスモエネルギーホールディングスは先ごろ、地球環境貢献活動を目的に展開している「コスモ石油エコカード基金」の会員感謝イベント「エコを楽しく学ぼう・畠山先生のわくわくトークin京都」を京都市内で開催し、会員に環境問題を考える機会を提供した。

京都大学教授、『森は海の恋人』理事長の畠山重篤氏が植林活動などを中心に、自然環境保全に関する講演を行い、「海のことを考える時には森まで視野に入れる。自然のつながりを多くの方に意識してもらいたい」と訴えた。参加者からは「自然は様々なことが連携してバランスが保たれていることがわかった」などの意見が寄せられた。

TMC TOMINAGA MFG CO

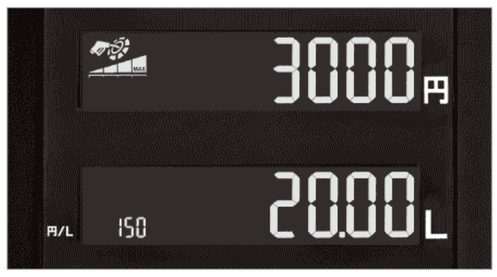
“燃料供給システム”の明日に取組む

新発売

ALUNA MULTI アルーナマルチ

NEW 大型で見やすい高輝度LCD表示器

業界最上級モデルのVA方式高輝度大型LCD表示器を搭載。ブラック素地に白文字を浮き上がらせ、鮮やかなコントラストと大型文字により昼夜を問わず、どの角度からでもハッキリと見やすい表示を実現しました。

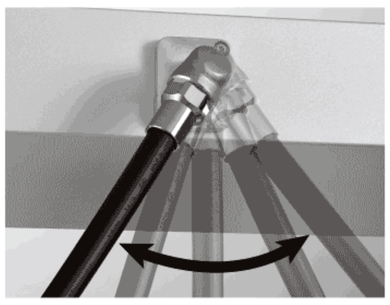


▶給油シグナル
ノズルや給油の状態をお知らせする機能です。
ノズルを取る　ノズルマーク点灯
給油中　給油マーク点滅

▶流速インジケーター
給油中の流速を「4分割」にしたグラフで表示。流速が一目でわかる安心マークです。

NEW スムーズな給油操作を実現できる スイングデリベリベンド

計量機とホースのジョイント部に「回転式のデリベリベンド」を装着。ホースの有効リーチが大幅にアップし、取り回しもスムーズになります。



安心の“ダブルチェック”水検知機能

AQUATECT® NEW

誤って油中に混入した水を、車両に給油してしまうトラブルを未然に防止。
計量機内部に、2つの高精度水検知センサーを装備し、水を検知すれば強制的に給油をストップします。

http://www.kyoto-tmc.co.jp

株式会社富永製作所　〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町88　営業本部 ☎(075)801-8139代表 FAX(075)801-1373
仙台営業所 ☎(022)287-9311 FAX(022)287-9312　東京支店 ☎(03)3484-5051 FAX(03)3484-3944
名古屋支店 ☎(052)414-1181 FAX(052)414-1180　関西支店 ☎(0774)41-3443 FAX(0774)41-3444
広島支店 ☎(082)283-2428 FAX(082)283-2606　高松支店 ☎(087)843-7130 FAX(087)843-9139
福岡支店 ☎(092)651-3168 FAX(092)651-3118　事業所・代理店／全国主要39都市

トレンドファイル

水素・燃料電池展に1590社参加

タツノはセルフ用ディスペンサーを展示

日立ＡＳＭはセルフに顔認証とタブレットを提案

タツノと日立ASMも充填機紹介

先ごろ3日間にわたり、「第15回国際水素・燃料電池展」が東京ビッグサイトで開催され、世界33ヵ国から1590社が出展し、6万7千人の業界関係者が会場を訪れた。タツノや日立オートモティブシステムズメジャメント、岩谷産業などが出展し、水素の製造・供給にかかわる最新の技術・商品を披露した。

タツノと日立ＡＳＭはセルフ式水素ステーション向けの高圧水素ガスディスペンサーを展示した。セルフの場合、ドライバーは安全教育を受講することが必須のため、受講の有無をチェックする本人確認が必要になる。タツノ製品は受講者にＱＲコードを発行することを想定し、ＱＲコードリーダーを搭載させている。日立ＡＳＭ製品は、顔認証カメラを搭載。また店舗スタッフが行う充填許可は監視場所が限定されないタブレット端末の利用を提案した。

岩谷産業は水素の製造から供給まで、同社サプライチェーンの取り組みと燃料電池式フォークリフトを、東京アールアンドデーは福岡市の実証実験に使用している燃料電池搭載小型トラックを、三菱化工機は「下水バイオガス」を原料にCO_2の排出を抑えた水素製造システムをそれぞれ紹介した。

トヨタはＥＨＶ電池設計部の佐藤栄次部長が基調講演に登壇し、同社の車両電動化への取り組みを発表した。同社のＰＨＶ、ＥＶ、燃料電池車はすべてプリウスなどＨＶで培ったモーター、インバーター、バッテリーをコア技術としており、小型・軽量・高品質・低コストを目指している。「電動車の世界販売台数は10年で累計1310万台となり、1億トンのCO_2抑制に貢献した。今後はモーターならではの加速性や走行性に加え、自動充電（非接触充電）を実現するなどユーザーメリットを追求していく」と強調した。

環境

大型車用洗車機を一新

簡単操作、高い節水性

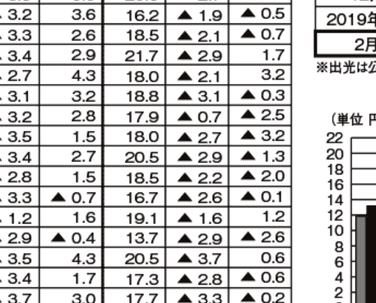
ビューテー

ビューテー（名古屋市、竹内英二社長）は大型トラック・バス向けの洗車機を10年ぶりにモデルチェンジし、新製品「魁－ＫＡＩ－」（オプション）を開発した。液晶タッチパネルによる簡単な操作や洗車時間の短縮など大幅な改良を加え、洗車性能の向上だけなく、従業員の業務負担軽減にもつながる点をアピールする。

新製品では、業界最多の8軸車形センサーにより、従来の4軸と比較して細かな洗浄動作が可能となり、特に天井やコーナー部分の洗浄力が高まった。タッチパネルを採用したことで操作性能が向上したほか、ケミカル類の残量も液晶画面で容易に確認できるようにした。

全長12㍍の車両を洗車した場合、1台あたりの洗車時間は最速3分28秒と、従来機の6分からほぼ半減させた。洗車時に消費する水は手洗いで約600㍑、従来機で約180㍑だが、新型機では約100㍑に抑え、約46％の節水率を実現した。月間500台を手洗い洗車した場合と比べると、年間約165万円の水道代を節約できる。このほか、ハイパワー下部洗浄装置「スパイダージェット」など、オプション類も充実させた。

運送業界では慢性的に人手不足が続いている。同社では、運転手が行っていた洗車作業を自動化することで労働環境の改善や人手の確保にも貢献するとして新型機を売り込んでいく。


12㍍の車両を約３分半ほどで洗車する

『ジオランダー』に新製品

4月『X－CV』発売

横浜ゴム

横浜ゴムは、ＳＵＶに開発した。ドライや用タイヤブランド「ジウエット路面での快適オランダー」の新製品性や経済性を備えつ「Ｘ－ＣＶ」（写真）つ、急な降雪にも対応を4月1日から発売する「Ｍ＋Ｓ（マッドる。255／55Ｒ18・＆スノー）」規格に適109Ｗ～275／40合させた。全サイズでＲ22・108Ｗの全17最高時速270㌔対応サイズで価格はオープ対応するスピードレンン。近年、増えているジ「Ｗ」も実現した。モノコック構造のハイパフォーマンス・クロスオーバーＳＵＶ向け

SS関連業界

太陽 整備士研修の応用編実施

太陽石油は先ごろ2日間にわたり、「整備士フォローアップ研修」の第2弾として、「整備士フォローアップ研修応用コース」を開催した（写真）。同研修は、昨年8月に実施した「整備士フォローアップ研修基本コース」の受講者全員が車検の点検・整備を体験することで、車検の技術や商品知識を高め、自信を持ってユーザーにアドバイスできるようになることが目的。

今回は「応用コース」として、自動車整備士資格保有者で、日常車検整備に携わっているSS従業員を中心に、実車を用いた研修を少人数制で実施し、講師から細かな指導・アドバイスを受けながらＨＶの車検整備に必要な知識・技術ポイントについて学習した。

受講者からは「いままでは知識が乏しく避けていたＨＶの車検整備に関し、繰り返し実習を行ったことで理解が深まり、今後自信を持って点検・整備のお勧めができる」などの声が多く寄せられた。

なお、来年度は、様々な整備関連の研修を体系化した新たなプログラムを実施する予定。

2月市況概況

卸 原油2ヵ月連続上昇

スポット、系列値上がり

2月の原油価格は大きく上昇した。それに伴い、ガソリン卸も陸上スポット・系列仕切りともに4ヵ月ぶりに値上がったが、ガソリン小売粗利（全国平均値）は前月比で3・1円縮小した。また、いわゆる業転格差は5・1円となった。

国内卸価格のベースとなる中東産原油（ＦＯＢ）の2月価格平均値（㍑換算）は前月比4・1円高の45・2円水準で、2ヵ月連続で値上がりとなった。

週決めフォーミュラ連動ベース推計のうち、ガソリン陸上スポット指標（京浜仕様・近距離ケース）は113・2円（前月比2・38円高）に値上がり。東京バージ先物も11・2円（3・5円高）に上昇した。この結果、格差は先物価格の20円安に縮小したが、5ヵ月連続で現物高。

ガソリン小売粗利推計は卸の上昇幅に届かず、全国平均で前月比3・1円安の15・1円に圧縮した。一方で33ヵ月連続で2桁マージンを保ち、大分が25・7円高、ＪＸＴＧ、出光、コスモが3・2円高だった。

東京商品取引所の2月納会価格は、東京バージでガソリンは10・2円（2・9円高）、軽油59・5円（2・9円高）、Ａ重油58・9円（3・2円高）と全油種5ヵ月ぶりに上昇。輸入はガソリン推計値が105・8円（3・6円高）と6ヵ月ぶりの反発。中間三品の推計値は灯油61・5円（3・4円高）、軽油60・7円（3・6円高）でいずれも5ヵ月ぶりに値上がりした。

系列仕切りはガソリン・灯油・軽油とも4ヵ月ぶりに値上がり。いずれも前月比（推計値）で昭シェルが3・8・5円（2・2円高）、灯油は61・2円（2・4円高）となった。また、中京ローリーもガソリンが111・9円（3・1円高）、灯油が61・2円（1・4円高）となり、いずれも値上がりした。

ＪＸＴＧ基準仕切りから推計した2月のノンブランド玉月平均は113・4円の水準で2・5円高。

ガソリンについて資源エネルギー庁調査によるレギュラーガソリン小売市況2月の全国平均は、前月比0・3円高の143・3円となり、5週ぶりに上昇した。最低価格も0・8円高の137・2円とわずかに上昇。安値ＳＳ代表格のジョイフル本田も1・0円高の129・0円に値上がりした。

ガソリン小売粗利推計で見ると、最低粗利は徳島県で冷え込み、全国平均で0・5円の圧縮となった。

マージン推計値で見ると、最低粗利は徳島の9・0円で、5週ぶりに1桁マージンまで落ち込んだ。ただし粗利推計幅の算定基準としているエネ庁小売市況調査はフルＳＳも対象に含まれるため、セルフの多い激戦地の実勢値はもっと低マージンの可能性がある。

軽油の小売全国平均は前月比0・3円高の124・4円と値上がりした。粗利推計は前月比2・9円安、前年比横ばいの19・0円。また、灯油店頭（㍑あたり）の小売全国平均は前月比0・2円安の88・8円。粗利推計は前月比3・5円安、前年比2・2円高の16・0円となった。

G業転格差推計5.1円

粗利圧縮するも2桁保持

売 価格は5週ぶり上げ

小 前月比は全県で粗利下落

都道府県別小売粗利の推移（2月）

	ガソリン			灯油			軽油		
	粗利	前月比	前年比	粗利	前月比	前年比	粗利	前月比	前年比
北海道	13.8	▲2.0	▲2.3	18.0	▲3.5	1.7	20.0	▲2.1	▲3.4
青森	13.3	▲3.7	▲1.3	10.6	▲3.8	0.0	17.5	▲3.6	▲2.2
岩手	11.8	▲2.7	▲0.3	11.0	▲3.6	2.4	15.3	▲2.3	0.1
宮城	12.0	▲2.3	▲2.4	11.3	▲3.8	▲0.2	15.4	▲2.7	▲2.7
秋田	14.7	▲3.5	1.6	11.6	▲3.5	1.8	20.8	▲3.6	3.1
山形	17.4	▲2.2	2.6	14.1	▲2.8	3.8	23.3	▲2.1	4.8
福島	16.5	▲2.4	0.2	12.8	▲3.6	2.0	19.5	▲2.5	▲0.7
茨城	11.5	▲2.8	▲2.0	10.6	▲3.4	0.4	14.0	▲2.9	1.7
栃木	12.6	▲2.9	▲1.0	13.7	▲3.2	0.6	16.4	▲2.8	0.5
群馬	11.6	▲1.6	▲1.3	13.5	▲2.9	1.9	16.2	▲2.3	1.2
埼玉	10.3	▲2.2	▲2.0	14.6	▲2.9	2.6	14.4	▲2.4	1.4
千葉	12.1	▲3.7	▲0.7	16.4	▲3.8	2.9	16.2	▲3.5	1.4
東京	15.9	▲2.6	▲0.9	22.8	▲3.9	0.9	20.0	▲2.7	▲1.3
神奈川	12.9	▲0.8	▲2.0	19.6	▲3.2	3.6	16.2	▲1.9	▲0.5
新潟	11.6	▲2.4	▲2.4	16.3	▲3.3	2.6	18.5	▲2.1	▲0.7
長野	19.7	▲3.0	2.9	13.5	▲3.4	2.9	21.7	▲2.9	1.7
山梨	17.2	▲1.9	2.4	15.7	▲2.7	4.3	18.0	▲2.1	3.2
静岡	15.1	▲3.1	0.3	18.2	▲3.1	3.2	18.8	▲3.1	▲0.3
愛知	13.4	▲0.6	▲0.9	17.0	▲3.2	2.8	17.9	▲0.7	▲2.5
岐阜	15.2	▲2.7	▲1.8	13.8	▲3.5	1.5	18.0	▲2.7	▲3.2
三重	14.7	▲2.8	▲0.5	16.5	▲3.4	2.7	20.5	▲2.9	▲1.3
富山	13.4	▲1.9	▲1.8	16.8	▲2.8	1.5	18.5	▲2.2	▲2.0
石川	10.7	▲2.0	▲3.7	12.0	▲3.3	▲0.7	16.7	▲2.6	▲0.1
福井	14.9	▲1.4	▲0.2	15.0	▲1.2	1.6	19.1	▲1.6	1.2
滋賀	13.6	▲3.4	▲2.7	13.8	▲2.9	▲0.4	13.7	▲2.9	▲2.6
京都	17.5	▲3.8	▲0.1	20.9	▲3.5	4.3	20.5	▲3.7	0.6
奈良	14.2	▲2.7	▲1.0	13.8	▲3.4	1.7	17.3	▲2.8	▲0.6
大阪	13.9	▲3.8	▲2.6	16.8	▲3.7	3.0	17.7	▲3.3	▲0.2
兵庫	13.5	▲4.6	▲1.6	16.7	▲4.0	4.5	16.9	▲3.8	0.1
和歌山	12.8	▲3.7	▲3.4	14.8	▲3.8	2.5	15.4	▲3.4	▲0.1
鳥取	13.3	▲2.4	0.8	15.5	▲2.8	2.4	19.9	▲2.4	0.4
島根	16.6	▲1.7	▲1.0	19.1	▲2.3	2.1	22.8	▲2.0	0.2
岡山	15.1	▲3.4	0.4	12.6	▲3.2	1.0	18.5	▲3.3	▲0.4
広島	12.8	▲4.1	▲1.6	16.0	▲3.7	2.6	18.9	▲3.8	▲0.5
山口	13.0	▲2.8	▲2.4	16.3	▲1.8	2.6	19.8	▲1.6	0.2
徳島	9.0	▲6.2	▲1.3	9.1	▲4.6	▲0.8	14.0	▲6.4	1.7
香川	17.0	▲5.8	0.4	12.8	▲4.3	2.3	18.3	▲5.0	2.2
愛媛	17.8	▲3.6	▲0.1	17.1	▲4.1	2.3	19.5	▲3.7	▲2.2
高知	22.1	▲5.5	3.1	20.8	▲5.4	6.9	24.9	▲5.5	0.9
福岡	16.9	▲4.7	1.2	14.0	▲4.3	2.6	18.3	▲4.0	2.7
佐賀	18.9	▲5.1	0.6	19.9	▲4.1	4.3	23.9	▲5.3	1.4
長崎	20.6	▲4.1	▲0.6	17.4	▲4.4	▲0.3	25.8	▲4.2	▲2.0
熊本	17.6	▲5.9	0.6	14.6	▲4.6	2.5	17.4	▲5.1	0.7
大分	25.2	▲4.1	6.2	20.6	▲3.9	5.4	26.0	▲4.0	4.9
宮崎	19.5	▲4.3	3.6	20.7	▲3.5	5.3	22.4	▲3.9	4.2
鹿児島	22.2	▲2.8	1.5	22.4	▲2.9	2.3	26.5	▲2.7	2.6
沖縄	19.5	▲3.3	▲3.8	27.4	▲3.2	6.0	19.6	▲3.0	▲3.9
全国	15.1	▲3.1	▲0.5	16.0	▲3.5	2.2	19.0	▲2.9	0.0

※小売粗利推計:エネ庁公表週市況月平均値－同月卸価格（本紙推計）

週決め仕切りコスト・月間推計値（近距離ケースＳＳ届け、消費税別：円/㍑）

	ガソリン		灯油		軽油		Ａ重油
	現物推計	TOCOM	現物推計	TOCOM	現物推計	TOCOM	現物推計
11月	123.4	114.6	71.6	67.1	72.1	71.1	70.4
12月	114.1	107.4	62.6	59.2	62.8	64.6	61.7
1月	110.4	107.7	59.9	60.4	59.4	63.6	58.3
2月	113.2	111.2	62.7	63.1	61.8	65.8	61.2
3月最近値	115.4	112.8	64.9	65.6	64.2	68.4	63.7

※現物推計は陸上現物ベースの計算値

原油・ガソリン系列仕切り変動幅の推移（前月比）　円/㍑

	原油	JXTG	出光	昭和シェル	コスモ
10月	1.8	4.2	4.2	4.3	4.4
11月	▲9.4	▲7.3	▲7.3	▲7.3	▲7.3
12月	▲6.8	▲9.1	▲9.1	▲9.3	▲8.9
2019年1月	0.2	▲2.2	▲2.2	▲2.2	▲2.5
2月	4.1	3.2	3.2	3.7	3.2

※出光は公表値、JXTG、昭和シェルは推計値、原油は中東産原油（円建て）

ガソリン小売粗利の推移

系列/業転格差